

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 25 年度第 2 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 25 年 11 月 21 日 (木) 午後 6 時から午後 8 時まで		
開催場所	小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		
出席者	委員	<出席者：14 名> 大江会長・松村副会長・加藤委員・竹内委員・波多野委員・清水委員・多田岳人委員・多田典子委員・佐野委員・鈴木委員・勝又委員・簗口委員・北澤委員・渡辺委員 <欠席者：0 名>	
	事務局	中谷環境部長・小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・秋元ごみ対策課長補佐・花野・井上・佐藤	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	1
会議次第	1 開 会 第 1 回審議会会議録の確認について 2 議 題 (1) 平成 26 年度ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵応募作品の審査 (2) 報告事項 可燃ごみ処理の状況等について (3) 平成 26 年度一般廃棄物処理計画の策定について (審議) 3 その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 25 年 12 月 25 日 (水) 小金井市役所本庁舎 3 階第一会議室		

審議過程（主な発言等）

大江会長	平成25年度第2回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。 平成25年度第1回の会議録について意見・修正がなければ公開手続きを執るが宜しいか。
委員各位	（異議なし）
大江会長	第1回廃棄物減量等推進審議会の会議録について確認されたこととし、公開の手続きをする。
大江会長	議題（1）平成26年度ごみ・リサイクルカレンダーの表紙絵の審査に入る。事務局より説明を頂きたい。
井上清掃係長	（審査方法について説明）
委員各位	（審査）
大江会長	議題（2）報告事項 可燃ごみ処理の状況等について事務局から報告して頂きたい。
藤田ごみ処理施設担当課長	（燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について資料説明）
大江会長	質問はあるか。
加藤委員	前回出して頂いたものより、減量が進んでいる。ただ、5%の減量目標に対して、2.6%減なので、このままだと450t近くが足りない。事業系の減量は大きいですが、家庭系は0.5%の減量にすぎない。家庭系ごみの減量に対する対策が必要だ。
多田岳人委員	まだ、5か月あるので150tぐらい上乗せがあるため、達成できないのは300t弱ではないか。
加藤委員	多田委員の指摘のとおりである。
渡辺委員	事業系ごみは、昨年の12月からシステムが変わったことにより減っている状況なので、12月以降はあまり減ることは見込めないのではないかと。
佐野委員	昨年と今年で何が違うのかを明らかにして、同じベースで比較しないといくら議論しても意味がない。
大江会長	データは大まかな流れだけになっているので、その情報共有ということで留めさせて頂きたい。 では、議題（3）平成26年度一般廃棄物処理計画の策定について審議に入る。事前に送付された補足資料について事務局から説明して頂きたい。

審議過程（主な発言等）

井上清掃係長	(平成26年度優先施策補足資料説明)
大江会長	これに関連して加藤委員から難再生紙について提案がある。
	(加藤委員からの資料配布)
加藤委員	<p>前回の審議会では会長よりごみ減量施策についてアイデアを出すようにとの話があったことから提案する。可燃ごみの中の紙類は全体で1,771t位になる。ごみ対策課によると、紙ごみの中で難再生紙は300t位らしい。拠点回収で公民館等に持って行くわけだが、かなり意識の高い人でないと持って行かないので、拠点回収の効果について検討すべきである。また、特に単身者の集合住宅では紙ごみの分別状態が悪いので、対策を具体的に進める方が、減量効果が上がるのではないかと考えている。難再生紙の回収については、実施する必要があると考えている。</p>
大江会長	補足資料の関連についてご意見はあるか。
多田岳人委員	<p>市内の9か所での拠点回収の品目変更だが、混乱を招く可能性があるのでは、紙ごみ排出時の戸別回収の方が良いのではないかと考えている。例えば、難再生紙に変えた場合、今まであそこに行けば紙パックを出せると思っている人に混乱はないのか。</p>
渡辺委員	<p>スペースの問題もあるだろうが、できれば紙パックに加えて、難再生紙も拠点回収に加えるという方が良いのではないかと考えている。更に、多田委員の指摘のとおり、週1回の古紙回収の日に難再生紙も集めるという方が参加しやすいのではないかと考えている。</p>
大江会長	<p>現状を教えてください。平成26年度優先施策補足資料別紙1にあるとおり、現状は燃やすごみとして戸別回収しているが、これを資源として9か所で拠点回収するというのか。現状は拠点回収でやっているのか。</p>
多田岳人委員	<p>拠点回収として9か所で紙パックを回収している。紙パックの拠点回収を撤去して難再生紙に変えるということである。</p>
小野ごみ対策課長	<p>紙パックについては、9か所の拠点回収の内、紙パックと難再生紙を両方置ける場所を確保できるのであれば、紙パックの拠点回収は継続する。ただ、場所によっては、両方を置けない所があるので、各施設の状況を見ながら検討している。一つしか置けない所については、紙パックにするか、難再生紙にするか決定していない。最大で9か所である。</p>
竹内委員	<p>家庭で出す場合は、いずれにしても分別をする。今までは、難再生紙は燃やすごみとして出していた。それを資源としてリサイクルするという考え方だろうが、市民の側からすればあらかじめ分別しておけば、拠点回収よりも戸別回収してもらった方が出しやすい。分別したものを9か所の拠点回収場所に持つ</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>で行かなければならないというのは不便だ。また、施設にボックスを置くにしても屋外に置いてあるのがほとんどなので火災等の危険性がある。戸別回収にしてもらった方が安全だし助かる。</p>
加藤委員	<p>何年か前にごみゼロ化推進会議で古紙の再生工場へ見学に行った。その時、工場の責任者が再生可能な紙だけでなく、カーボン紙等の難再生紙が若干入っていても良いと話していた。今は、技術が進歩して難再生紙のみを処理する業者もある。あえて紙ごみと難再生紙を分けて回収する必要があるのか。</p>
北澤委員	<p>なぜ紙パックだけ9か所の市施設で拠点回収して、戸別回収をしていないのか。</p>
佐野委員	<p>難再生紙を拠点回収するというのは、検討の余地があるのではないかと。拠点回収にどういった人がくるのか。極端な話をすれば、集合住宅に分別して置いてもらって、それを回収する方が人口比率から言えば有効性があると思う。出す相手をフォーカスしてどういう特性があるのか、どうやったら市民に協力してもらえるのかという観点を入れるべきだ。全ての廃棄物について拠点回収というのは無理があるのではないかと。</p>
大江会長	<p>拠点だけでやっているのはどの種類になるか。</p>
竹内委員	<p>生ごみ乾燥物、食品トレイ、ペットボトル、キャップだ。拠点へ持って行く方が集まりやすいから持って行く人もいるし、各家庭でも決まった日に出している。難再生紙については、燃やすごみに入れてある。その中からこれを取り出して、拠点回収しようということが事務局案から出てきているが、無理だと思う。</p>
大江会長	<p>無理だと思う一番の原因は何か。</p>
竹内委員	<p>家で分別してごつがみとは別に燃やすごみに出していたものを、リサイクルできるということでわざわざ公民館等へ持って行くのは大変だ。市民にとっては、近くに拠点回収場所がない場合もある。また、せっかく分別するのだからより徹底するために、各戸別に置いた方が、お互いが確認できる。特に活動の活発な町会は、見回りをしているところもある。だから、わざわざ拠点回収場所へ持って行く必要がないと思う。</p>
大江会長	<p>分けて拠点回収をやりようとした場合に、近い人は良いがそうでない人は努力が報われないケースがあり得るという意見だ。佐野委員は少しニュアンスが違って、戸別回収でやりようとしても、網の掛け方が違うのではないかとという意見で、これをやるなら、もう少しターゲットを絞って重点的に実施した方が効果が上がるのではないかとという意見だ。</p>
加藤委員	<p>確かに拠点回収は戸別回収に比べるとお金が掛からない。しかし、生ごみ乾燥物もそうだが、異物を入れられてしまう恐れがある。そういう点で無責任に</p>

審議過程（主な発言等）

	なるのではないかと思う。また、竹内委員の言われたとおり、紙なので火の用心等管理をしっかりとしないといけない。
多田岳人委員	紙パックに比べたら、難再生紙はより燃えやすいのではないか。
竹内委員	樹脂が塗ってあるので、普通の紙より火力が出る。そういう意味で、市の安全に対する考え方を検討して頂きたい。屋内に置くのであればそれなりに危険性は防げるが、今は、ほとんど屋外に置いてあるので考えなければならない。
多田岳人委員	9か所の内、6、7か所が屋外だ。また、この9か所へ気軽に歩いて行ける範囲に住んでいる人は、市の人口の1割に満たないのではないか。
大江会長	平成26年度に向けての新しい施策の一つについて問題点が指摘されたわけだが、方法は別にして、難再生紙の分別回収について反対の人はいるか。
竹内委員	やることは良いと思う。
佐野委員	今の技術で混ざっていると再生できないのか。色々調べてみたが、必ずしも分けて処理しなくてもできてくる製品をどういう使い方をするかで、その技術の使い方があるということらしい。そうすると本当に分けなければならないのか。
大江会長	そこは根本なところなので、そのことについて情報を持っている方はいるか。
松村副会長	私の職場にも色々な紙ごみがある。コピー用紙が一番再生しやすい。カラー用紙はシアンとかが入っているので除いた方が良い。また、化学機器等のカタログは一か所に集めて別に業者が処理して再生される。ティッシュや紙コップは燃やすごみで出している。紙は4種類ぐらいに分けている。業者にどう分けられようという風に処理されるのかははっきりさせた方が良い。
渡辺委員	質の高い製品にリサイクルしようと思えば、きっちり分かれていなければならない。リサイクルの趣旨から考えて、できるだけ質の高いものにリサイクルするのが一番望ましい。質の低い製品でも良いのであれば、混ざっていても良いということだ。市民の便利さを取るのか、質の良いリサイクルを目指すのかという選択になってくると思う。
加藤委員	古紙の市場ではランクがあり、家庭の古紙はランクが低く、トイレトーパーとかボール紙になる。見学した古紙再生工場では、質が低くても大丈夫で、分離したり溶かす技術が当時でも高かった。そこで難再生紙だけを分離して回収するという結論になったのはどうしてなのか、教えて頂きたい。
大江会長	小金井市では、古紙を何種類かに分けて回収して資源化しているが、そこに可燃ごみにしていた難再生紙をどうするか。分別した紙を持って行く所の受け

審議過程（主な発言等）

	<p>皿がどんな状況になっているのか。混ぜられていても資源化できるのであればそのままが良いし、できないのであれば、新たな先を探せるのか、探せなかったら、可燃ごみに入れざるを得ないし、市民努力を正當に報われるような所を考えたいということだ。小金井市はごみを何とか減らさなければならないので、事務局としてはターゲットとして新たな施策となればこの辺しかないので、やれることはやってみようということで、拠点回収ならやりやすいということで出てきた。しかし、色々な問題点がある。受け皿の方で今の紙ごみの資源化のルートで受けられるのかどうか、溶解しながら受けられるのであれば一緒に入れられるし、受け皿として駄目だとなれば今年度来年度の新しい施策にはならない。次回までにははっきりするのであればその時に結論づけられる。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>今、小金井市では資源物として古紙を集めて資源化しているが、新聞、ざつがみ、雑誌・本、段ボール、紙パック、シュレッダー紙のみである。なぜそういう形で定めたかという、公益財団法人古紙再生促進センターが定めた古紙ハンドブックに基づいた再生工場の方に全部持って行っている。市が集めたものも、集団回収で市内の業者が集めたものも全てガイドラインに基づいた工場へ持って行っている。その工場の方で、古紙標準品質規格があり、今回難再生紙として挙げた写真や感熱紙等については禁忌品として定められている。禁忌品については、原則的には受け入れないとしているが、全体の0.5%までは容認するとのガイドラインがある。そこで、難再生紙については、難再生紙だけを扱う別の工場に持って行く。今、川崎市の工場に打診をしている。</p>
<p>清水委員</p>	<p>難再生紙を扱う工場はコストが上がるのか。キロ当たりの処理料はどうか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>通常古紙と難再生紙の比較はできていない。古紙については、資源物として持って行っている、処理委託料を支払っていない。しかし、難再生紙については処理委託料を払う。可燃物として処理するよりも安くなる。戸別回収も考えたが、意識が高い人は分別してくれるが、かなり細かい分類をしなければならないので、難再生紙が通常古紙の中に0.5%を超えて入る可能性が非常に高くなるだろうと思われるので、拠点回収という形にした。今後、状況等を見ながら戸別回収も視野に入れている。食品トレイ、紙パック、ペットボトル、ペットボトルキャップ、生ごみ乾燥物を拠点回収している市の施設は15か所ある。その中で紙パックを置いている所が9か所だ。紙パックについては、集団回収や古紙で出している家庭が非常に多い状況の中で、紙パックの拠点回収の状況を調べている最中である。その結果、両方を置いた方が良い所であつ置けるスペースがある所は、紙パックと難再生紙を置きたいと考えている。難再生紙で注意しなければならないのは、カーボン紙で、例えば宅配のラベル等には個人情報が入っている。屋内に回収ボックスを設置できる市の施設では、職員がいるため管理できるので、なるべく屋内に置きたい。屋外に置かなければならない所で、かつ屋外に置くときは、回収ボックスに手を入れられないものを検討している。当面は拠点回収を実施していく中で広報啓発をして、ほぼ全員の市民が分別の仕方を分かるように取り組むことで市民が苦にならない分別になるのであれば、将来的には戸別回収するところまで視野に入れている。</p>

審議過程（主な発言等）

大江会長	カーボン紙等難再生紙で何ができるのか。
小野ごみ対策課長	トイレットペーパーである。
清水委員	紙パックを拠点回収しなければならない理由は何か。ある時期、質の良い紙だから再利用価値が高いということでやったのだらうという気がするが、今はそういうメリットがあるのか。
小野ごみ対策課長	実際に現場9カ所を見に行っただが、紙パックについては、戸別回収よりも前から拠点回収を実施しており、戸別回収として分別して古紙の日に出している方もいるが、従前どおり拠点に持ってくる人が非常に多いと考えており、急に拠点回収場所をなくしてしまうことには課題がある。
清水委員	紙パックは戸別回収と同じルートで処理するのか。別のルートなのか。
小野ごみ対策課長	戸別回収と同じルートで処理している。
清水委員	以前シュレッダーは資源物として出せなかったが、最近は資源物として持つて行ってくれる等基準が少しずつ変わっている。何をしてはいけないか理由が分からないままそれが習慣になっている。理由を説明してくれると応用が効いて考えやすい。また、紙コップは、なぜ難再生紙に入っているのか。紙パックと何が違うのか。汚れがあるかないかの違いでしかなく、変わらないのではないか。
小野ごみ対策課長	紙パックについては、最初から材質が良いので、良質な再生品ができる。コーティングがされていて、見た目は紙コップと同じだ。しかし、紙コップは紙パックと違って良質な再生品ができる品目に入っていない。
清水委員	紙コップだけ回収して特定の製品にしているところもある。
渡辺委員	細かく分けたら分けたで使い道がある。
加藤委員	紙パックは店頭回収しているところがあり、一番経費が掛からない。
小野ごみ対策課長	店頭回収については、各事業者の努力によって引き続き続けて頂きたい。行政としては、難再生紙については燃やすごみとして出さずに、拠点回収として排出して頂きたいと考えている。
佐野委員	拠点回収で集めた紙パックは、ざつがみと一緒にすることはしないのか。
渡辺委員	紙の業者の方で、もっと細かく分別しているのではないか。
多田典子委員	以前、富士の方のトイレットペーパーの再生工場を見学したことがあるが、アルミが付いた酒パックも再生できるという話を聞いた。他が使わない紙だと

審議過程（主な発言等）

	<p>コストが安いし、人が使わないものを使えば利用できるが汚れていないロールのようにまとまっている方が使いやすいとのことだ。個人がやるには牛乳パックからということで牛乳パックだけを始めた会社がある。その姿を見てくると、主婦としてはアルミパックと牛乳パックを別に回収してくれると有難い。容器に至っては、カップラーメンもビニール系とプラスチック系のものと微妙にあるので、その区別が本当にできるのか。納豆パックも洗ってリサイクルしたい人もいるが臭気の問題もある。</p>
<p>大江会長</p>	<p>難再生紙の分別・リサイクルを小金井市としては、やはりやって行くべきもので、それをどの位効果的にやれるのか、9か所の拠点回収はもっと増やすべきなのか、発火の危険性はないか、もう少しターゲットを考えて効果的な形でやるべきなのか、その辺の議論なのかと思う。まず、今提案されている難再生紙をやらないということはないで良いか。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>難再生紙とざつがみとの割合が分からない限り、0.5%という条件を超すのか超さないのか、はっきりしないで0.1%ぐらいしか出ないということであれば、あえて分ける必要はない。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>基本的に禁忌品は入れないで下さいということなので、入れても良いとは言えない。入れるとしたら、ざつがみが全て難再生紙になって、お金を掛けて処理しなければならなくなる。再生するという工夫としては賛成だが、考え方としては、この難再生紙とリサイクルできないプラスチックを集めて、RPFという燃料として使うという利用方法もあり得る。紙として再生するという用途だけに限ったことではないということ指摘しておきたい。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>古紙再生ハンドブックに基づいて品質規格に合ったものを工場に渡しているということだが、見学した古紙再生工場では、少しその規格と外れていても受け入れると聞いたが、そのことについて検討はしていないのか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>市内の古紙業者が禁忌品が入っていたために突き返されたことは多々ある。禁忌品は駄目というのが原則だ。ただ、0.5%以内であればやむを得ず受け入れるという形になっている。</p>
<p>大江会長</p>	<p>拠点における発火等の危険性については、事務局としては検討したのか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>発火と個人情報のことを考えて、できれば屋内が良いという判断をしている。屋外に置いているところがあるが、まだ協議は行っていないが、その所管する部署に働きかけて行くつもりである。</p>
<p>大江会長</p>	<p>拠点の数を増やすことについての可能性はいかがか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>当然検討していかなければならないが、最初は紙パックの代わりに難再生紙をとということだったので今の段階で9か所としているが、その他の所で難再生紙を置くことが可能であれば、増やして行くことも視野に入れていきたい。</p>

審議過程（主な発言等）

大江会長	事務局側としては拠点を選ぶに当たって、紙パックの代替として難再生紙を考えているが、市民側としては出し方をどう思うか。
佐野委員	紙パックに替えてということは、紙パックの回収を止めるということか。
波多野委員	戸別回収の方に出すということだ。
多田岳人委員	9か所の紙パックのボックスを撤去して、その代わりに難再生紙のボックスを置くというイメージだ。
大江会長	二つは置けないのか。
小野ごみ対策課長	スペースがあれば二つ置くことも検討できるが、現在、細かい部分の精査を行っている。今後の状況によっては、紙パックのボックスを全て撤去して難再生紙に替えることも視野に入っている。その場合は、紙パックは既に戸別回収しているので、そちらで出すように周知をしていかなければならない。
佐野委員	今、紙パックを別々に出しているが、回収する時は同じ車に乗せている。質の良いものを分けて回収しなければ意味がないのではないか。
小野ごみ対策課長	現在、戸別回収として、新聞、ざつがみ、雑誌・本、段ボール、紙パック、シュレッダー紙を回収しているが、それぞれの品目ごとに分別して頂き回収をし、例えば紙パックはトイレトペーパー、ざつがみや雑誌はお菓子の箱になる等、それぞれ品目ごとに再生されるものが違っている。集団回収も戸別回収も集める時は同じ車であっても、市内の古紙業者でそれぞれ分けて古紙再生工場へ持って行っている。
松村副会長	作業としては、非常に合理的だ。回収する時、別々に回収するとかなりコストが掛かる。出す時にしっかり分別して、回収時には1回で済むので一緒でも良い。その後、分けて別々のラインで処理をすれば良い。
小野ごみ対策課長	集団回収の段階でも、それぞれ分けて出してもらうのが一番良いが、全部まとめて出しても市内の古紙業者で分別している。また、市内の古紙業者に売却しており各品目ごとに歳入が入ってくるので、確実に分けている。
波多野委員	結果的に難再生紙も紙パックもトイレトペーパーになるが、紙パックは買ってくれるが、難再生紙はお金を払うということか。燃やすよりも安いのでその方が良いということか。
多田岳人委員	難再生紙は有償の委託だが、その他の紙類は逆有償で市がもらうということになる。
大江会長	狙いは可燃物の減量ということで今やろうとしている。拠点回収から始めて良いか。

審議過程（主な発言等）

波多野委員	拠点回収に持って行く場合は、難再生紙になるが、持って行かない場合は、燃やすごみに入れるしかないということか。
大江会長	事務局としては、今後拡大していくが、拠点回収から始めて様子を見ていきたいということだ。
波多野委員	紙パックを拠点に持って行かなくても回収してくれるのに、なぜ拠点へ持って行く人が多いのか。
加藤委員	最初は拠点回収だったので、習慣かもしれない。
養口委員	高齢者等戸別回収していることを未だに知らない人がいるのかも知れない。
鈴木委員	私も習慣で持って行ってしまふ。
波多野委員	啓発することで、戸別回収を行っていることを分かってもらえば良い。
北澤委員	9か所で拠点回収する意味がないのではないか。なぜ拠点回収を実施しているのか。
小野ごみ対策課長	恐らく、拠点へ持って行く人は、一週間に紙パックが1枚しか出ない人で、束ねる程ないし、家に置いて置きたくないのではないか。
大江会長	事務局の調査によると、有償にはなるが可燃ごみとして出すよりも安く、紙パックについては、確実に資源化ルートに乗せているということだ。難再生紙の拠点回収からやってみようということで、新しい施策に入れていきたい。
佐野委員	燃やすごみの中に、生ごみは半分、紙は半分入っている。生ごみも分別すれば、燃やすごみの紙類は資源化できる。生ごみの分別回収をしないと市は言っている。整合性をとれた施策として今後やっていくのか。
大江会長	それはこの先の状況を見ながら、そこで決断しなければならない時期がくるかもしれない。様々な分析を含めて検討しなければならない要因が沢山あるため、そういうことを視野に入れながら、今は様子を見る時期ではないか。
佐野委員	基本的な考え方は、いつか決めなければならないのではないか。
加藤委員	分ければ分ける程資源化率は高まるし、ごみ減量が進むと思う。ただ分ければ分ける程お金が掛かるし、経済性の問題がある。どう整合性をとるかだと思う。
大江会長	この施策については、来年度実施して、どれぐらい減るかも含めて検証していくことになると思う。その検証に当たって、現段階での事前チェックがないと上手くいかない。

審議過程（主な発言等）

佐野委員	チェックとは、現状を数量的におさえて欲しいということか。
大江会長	その通りである。また、できる限り拠点においてどれだけ集まってくるかも含めて、チェックをして頂きたい。
多田岳人委員	ヨーグルトの容器や汚れが取れないものは禁忌品になるということか。
小野ごみ対策課長	その通りである。鼻を噛んだティッシュとか油絵や油を拭いた紙等も駄目だ。難再生紙の業者であっても禁忌品はあるし、基本的には汚れたものは駄目だ。
大江会長	他に平成26年度処理計画について提案・意見あるか。
渡辺委員	難再生紙とリユース食器の兼ね合いで、紙コップは難再生紙として資源化されるから、リユース食器を使わなくても良いのではないかという風になってしまいかも知れないが、リサイクルよりもリユースの方が優先でリユース食器を推奨するという理解で良いか。
加藤委員	リユース食器について町会で紹介した時も良い反応だった。しかし、優先順位として進めて良いと思うが、有料でもするかどうかについてはアンケートでも賛否両論ある。ダイナックスの調査によれば港区では無料だ。無料だったら普及すると思うがお金が掛かる。破損すると弁償代が100円というのは高い。確実な回収が大きな課題である。
大江会長	次年度施策について佐野委員に基本的な問題提起をして頂きたい。
佐野委員	諮問されている内容と別の内容となるが検討してほしいこととして、基本計画はいつどのようにして作られるのか。また、廃棄物会計を他市と比べられるようなシステムを検討していくのが必要なのではないか。
大江会長	基本計画は審議会に係る大事なものなのでいつからやるのか。廃棄物会計について小金井市の今後の方針について事務局に訊きたい。
小野ごみ対策課長	<p>今の基本計画は平成18年度から平成27年度のものである。本来であれば5年経過したところで見直しをしなければならないが、小金井市の場合、見直しを行っていない状況である。そのため、平成28年度に向けては新たな基本計画の策定をしなければならない。また基本計画について、廃棄物減量等推進審議会で審議をして頂くことになるが、あくまでも現時点での予定であるので、不確定な部分もあるが、今年度から着手していきたいという思いはある。実際、廃棄物減量等推進審議会に諮るのは、諮問という形になってからなので、今年度中には諮問には至らず、来年度になる予定である。</p> <p>廃棄物会計については、国がガイドラインを設けており、それに基づいて各市が公表すれば色々な部分での比較はできるかもしれないが、現時点で国の廃棄物会計のガイドラインを導入している市は多くはない。現時点で他市と比較</p>

審議過程（主な発言等）

<p>加藤委員</p>	<p>できるのは、総務省が定めた統計である地方財政状況調査だ。しかし、廃棄物についてはそこまで至っていない。国のガイドラインを読みこんで、今小金井市が出している廃棄物会計とどこが違うのか勉強してから今後どうしていくのか検討したい。他市でも検討している所もあれば、これからの所もあると思う。多摩26市の状況等も考慮しながら判断していきたい。</p> <p>10年間も見直さなかった小金井市のような市は非常に特異だと思う。もし、平成28年度から作らないということになると法律違反になる。ただ作れば良いというのでなくて、作る時には市民の意見を検討して、相当練るべきだ。今年は調査の予算を出しているようだが、市民と協働で作って頂くようお願いしたい。</p> <p>廃棄物会計については、小金井市は先進的だと思う。他市では、小金井市程きちんとしていない。ただ、小金井スタイルのようになっているので、他市と比較するためには、財政の普通会計のように統一的にやって貰えると大分違うと思う。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>先程の発言に補足説明させて頂きたい。まず、平成28年度以降の新たな基本計画については、今年度から着手していきたい。一方で、今の基本計画についても一部修正をしなければならない部分もあると思うので、現委員の中で検討して頂くことも視野に入れている。</p>
<p>藤田ごみ処理施設担当課長</p>	<p>日野市・国分寺市・小金井市の可燃ごみの共同処理の話が具体的に進んで行く場合には、今の基本計画にも新たな地方公共団体で共同処理するという文言があるが、具体性に欠けるので、方向性が確認された段階で文言を変更したいと考えている。その際には、追記あるいは修正を現審議会にお願いしたいということをお知らせさせて頂く。</p>
<p>大江会長</p>	<p>平成26年度の処理計画はなるべく早めに議論を終えて、基本計画の準備に早く着手した方が良いと思う。</p> <p>前回、松村副会長から平成26年度の処理計画は前年度とほぼ同じ内容ではないかという指摘があり、同じ内容にしても、もっと分かりやすく見やすくして欲しいという提案だったと思う。5%減の減量目標も含めて意見を頂きたい。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>現在、2.5%程の減量ということだが、事業系の収集のやり方が変わったことによる表面的な減量だ。減量が進んでいる小金井市にあっては5%の減量は大変なことだと思っており、減量目標については5%でなくても良いと思っている。この計画では来年は2.5%すら達成できないと思う。不燃ごみも1%としていたが、今年は3%も増えている。題目だけを掲げるような計画にはしたくない。裏付けを持った計画を作らないといけないと思う。そういう点では重要な定義だ。</p>
<p>竹内委員</p>	<p>優先して取り組む施策の中のウの不燃系ごみに含まれる使用済小型電子機器等の別途回収だが、具体的にいつから始めるのか。他市では回収ボックスを</p>

審議過程（主な発言等）

<p>大江会長</p>	<p>設置してやっている所が多いので、小金井市は遅れている。他市を参考にして実施する場合には、広報の仕方とか、機器名を羅列して市民に分かるように広報しないと成果は上がらない。</p> <p>実際に取り組んでいる施策の中の剪定枝の問題だが、最近燃やすごみの日に出している家庭が目につく。燃やすごみとして収集されてしまうのではないか。剪定枝として出してもらおうよう、市報に出すとかもう一度徹底すべきではないか。</p> <p>優先して取り組む施策で小型家電の問題をどうするのか。どこまで計画が進んでいるのか。充実させて取り組む施策が今年度までどの位効果があったのかわなかったのか。それを踏まえて施策を充実させた場合に、効果がもっと表れるといえるのであれば、5%という定量的なものばかりではなく、定性的なものも含めて一緒にしなければならない問題もある。ごみ減量目標を変更した場合の悪影響等はどうなのかという検討もあるし、前回松村副会長が提案したところをもっと整理して出して頂いて、新たにこの中でこの辺はどうなんだというのを出したい。それを一覧として、例え施策としては新たなものや同じものであっても中味はこれだけ目に見えるような形でやるということを出したいと思うがいかがか。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>5%についてだが、環境省が終末処理場の能力がなくなってきたので、5%減らさないと終末処理場が維持できないというところから5%という数字がある。多分、小金井市もその数字を使っていると思う。積み上げた上での5%でもなければ施策後の5%でもない。それを取るのか、きちんと積み上げて何パーセント削減するのか、大きな問題だ。単年度の処理計画で議論することではなくて、長期基本計画の中でやって行かなければならない問題だと思う。</p>
<p>大江会長</p>	<p>この5%という題目をおろせるかどうか。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>おろす必要はない。積み上げた数字でないのそこを議論しても意味がないのではないか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>この基本計画を作った時には、一定の数字を出したが、平成27年に達成するところを平成20年に達成してしまった。その後、いくらにするか決めていないので、毎年5%だから今年も5%、来年も5%にしようということだけでやっており、広域支援をして貰っている所に対する配慮が大きく影響しているのではないか。ごみゼロ化推進会議で色々なことをどうしようか議論している時に、5%だけが浮いているような気がして虚しい。</p>
<p>多田岳人委員</p>	<p>普通に考えて、来年度難再生紙を60tと言っても、それ以外で少しだけなら200tくらいしか減らないと考えたら、来年も2%台で終わるかと思う。</p>
<p>大江会長</p>	<p>そこを充実させて取り組む施策で見直して努力目標を出すしかない。また、このタイトルは可燃ごみの全量他市・一部事務組合にお願いしている中で、最大限のごみ減量を目指すというのは、昔のスローガンのままだ。これも変え</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>ようがなくやっている。ということを考えると新たに作るものに関しては、もう少し新しい発想も含めてやっていかなければならない。</p>
佐野委員	<p>与えられた条件の中で議論していかなければならない。今、枠組みを小金井市で作れない。そこが大きな課題だ。個人的には平成26年度の処理計画はこれで良いと思う。</p>
松村副会長	<p>施策は沢山あるので、それを一つ一つチェックして、できれば3つ位が望ましいが、一つでも効果がありそうなことを具体的に何をやるのか。加藤委員の提案の転入者の問題、これも素晴らしいことだと思う。転入者が毎年8,500人くらいのようなのだが、この人たちが小金井市のやり方を身に付けたら、どのくらい効果があるのか見積れるのではないかと。具体的にどうするのか決めなければ、このままでは前進しないと思う。</p>
佐野委員	<p>ごみ減量のかかるたを作ることにしても、それはどういう風に影響するのか。何がしたいのか見えてこない。</p>
大江会長	<p>もう少し、二つの分けてある施策の一つ一つを深堀できるものはないか、特にこれまでやってきたことの中で、充実させるものはないか、次回までに考えてきて頂きたい。次回にこのあらすじを決定したいが、我々としてもっと煮詰めてやりたい。</p>
井上清掃係長	<p>(ごみ・リサイクルカレンダーの表紙絵の審査結果発表)</p>
佐藤減量推進係主任	<p>次回は12月25日水曜日午後2時から本庁舎3階第1会議室で行いたい。</p> <p>閉会</p>